

23原機（サ保）057

平成23年11月4日

経済産業大臣

枝野 幸 男 殿

茨城県那珂郡東海村村松4番地49

独立行政法人日本原子力研究開発機構

理事長 鈴木 篤 之

東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所
再処理施設主排気筒ダクトの貫通孔の確認について

標記の件について、使用済燃料の再処理の事業に関する規則第19条の16
に基づき、別紙のとおり報告いたします。

今後詳細に調査し、原因及び対策について報告いたします。

別紙：原子力施設故障等報告書

以 上

原子力施設故障等報告書

平成 23 年 11 月 4 日

独立行政法人日本原子力研究開発機構

件名	再処理施設主排気筒ダクトの貫通孔の確認について
事象発生の日時	平成 23 年 10 月 28 日 (金) 16 時 25 分頃
事象発生の場所	再処理施設 主排気筒ダクト (非管理区域)
事象発生の原子力施設名称	独立行政法人日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所 再処理施設
事象の状況	<p>核燃料サイクル工学研究所再処理施設の分離精製工場等から発生する気体廃棄物を排気する主排気筒に接続している主排気筒ダクトの支持架構の耐震性向上工事において、主排気筒ダクトの塗装前の点検を行ったところ、16 時 25 分頃に当該ダクト下部に楕円状の貫通孔(長径約 20 mm, 短径約 10 mm)を確認した。このため、応急措置として 16 時 30 分頃にアルミテープにより当該貫通孔を閉止した。</p> <p>その後、11 月 1 日に、主排気筒ダクトの内部に立入り目視点検を行ったところ、新たに 2 箇所の貫通部(ダクト北側側面に長さ約 200 mm, 幅約 0.4 mm、ダクト上面に長さ約 150 mm, 幅約 0.5 mm)を確認した。新たに確認した貫通部についてもアルミテープによる閉止措置を行った。</p> <p>なお、当該ダクトについては、3 月 24 日に東北地方太平洋沖地震後の点検を行うとともに、10 月 6 日には定期的な点検を実施したが、ダクト表面の錆、一部塗装の剥がれ等を確認したものの、これら 3 箇所の貫通部は確認されていない。</p>
事象の原因	<p>当該ダクトは屋外に設置されており、貫通部及び周囲の状況から、雨水等による腐食によるものと推定する。</p> <p>今後、腐食要因の調査を行って、原因究明を行う。</p>
安全装置の種類及び動作状況	なし
放射能の影響	主排気筒の排気モニタ及びモニタリングポストの値に変動はなく、3 箇所の貫通部周辺のダクト表面にも汚染は認められなかった。今後、貫通部からの放出量を評価し、一般公衆への線量評価を行う。
被害者	なし
他に及ぼした障害	なし
復旧の日時	平成 23 年 11 月 1 日 (月) 16 時頃 (仮復旧)
再発防止対策	今後の原因調査の結果を踏まえ、必要な対策を講ずる。